

場所・面積 静岡県藤枝市、1.2ha

管理目的 近隣学校の校外学習、近隣住民からの要望に応じた対応、自社従業員の憩いの場、また地域の生物多様性保全に貢献することを目的。

サイト概要 静岡県藤枝市高柳に立地する住友ベークライト株式会社 静岡工場敷地内にあるビオトープ。

地域の絶滅危惧種のミナミメダカ¹の他、二次自然環境に古代ハス（大賀ハス）やヤマトタマムシなどをはじめ多種多様な動植物が生息する。近隣住人向けの観察会、ご要望に応じてビオトープを開放、現在は近隣小学校向けを中心に校外学習などで活用している。



土地利用の変遷 工場内にある調整池および周辺緑地について2011年度に行った生態系調査の結果、地域の絶滅危惧Ⅱ類（VU）〔静岡県レッドリスト〕のミナミメダカ、その他にヤマトタマムシ、カワセミなどの希少種が確認され、生物多様性保全の必要性が高いと判断し、保全目標・復元目標を掲げて企業ビオトープの形成を5年計画（2012～2016年度）で実施、保全目標・復元目標に沿った活動として元々あった地域（志太平野）の自然を取り戻すために外来種の駆除、地域にあった植物などを植栽。2017年度から一般公開を開始し、現在はミナミメダカの個体数も増加し定着している。

サイト周辺の環境 静岡県藤枝市高柳に立地する住友ベークライト株式会社 静岡工場敷地内北東に位置する緑地・水辺を活かした企業ビオトープ。申請サイト周辺は元々緑地にあったコナラ・クヌギなどのブナ科の樹木の林、シンボルとなるエノキの大木、人工的に造成した丘や林から成る。



アピールポイント 地域の絶滅危惧種であるミナミメダカ¹の個体数が増加し、小学5学年で学習する教材、その他の目的として近隣小学校からの要望に対応しミナミメダカを毎年進呈している。また、メダカの保全を含めたビオトープ保全を中心としたSDGsの取り組みを題材にした出前授業を実施、合わせて校外学習の際に五感を感じる体験を行うなど、地域とのコミュニケーションを継続している。植物は古代ハス（大賀ハス）や秋の七草などが毎年彩りをみせ、2021年には渡り蝶であるアサギマダラの飛来が確認された。¹

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

ビオトープ内のエノキの林には、タマムシの餌であるエノキを求めて、毎年初夏の頃から多くのヤマトタマムシの飛来が確認できる。また、林に設置のエコアップ装置（木積み）に産卵したヤマトタマムシの羽化も確認。その他コシアキトンボが木陰で羽休めをしている光景も観察できる。

【主な植生】

林の主な植生はエノキである

【確認された主な動植物】

植生：エノキ（学名：Celtis sinensis）

昆虫類：ヤマトタマムシ（学名：Chrysochroa fulgidissima）

コシアキトンボ（学名：Pseudothemis zonata）



写真の撮影年月：2020年6月

写真の説明：エノキの林



写真の撮影年月：2020年6月

写真の説明：エノキの林に集うヤマトタマムシ・コシアキトンボ

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

ビオトープ内には、動物の誘致を目的とした人工的な仕掛けが各所にあり陸地では盛土による人工の丘を形成し地域の植物を植栽、また動物誘致としてエコアップ装置（木積み、石積み等）により多様な動物が生息している。水辺は、湿地のエコトーン整備で浅瀬・深瀬造り、他に水生植物の植栽にて水生生物の産卵場所を確保している。

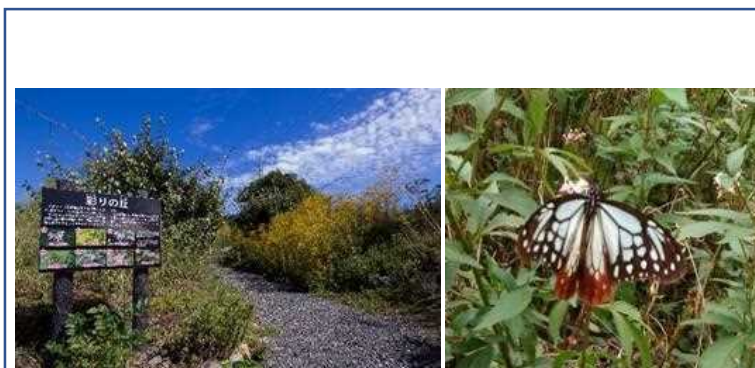
【主な植生】

湿地：大賀ハス（古代ハス）、コガマ、ショウブ、コウホネ等
 丘（彩りの丘）：オミナエシ、ノコンギク、オカトラノオ、ナデシコ
 クズ、ハギ等

【確認された主な動植物】

以下のとおり、在来種が確認されている。

淡水魚類：ミナミメダカ（学名：Oryzias latipes、成体）
 オイカワ（学名：Opsariichthys platypus、成体）
 モツゴ（学名：Pseudorasbora parva、成体）
 蝶類：アサギマダラ（学名：Parantica sita、成体）
 ベニシジミ（学名：Lycaena phlaeas、成体）
 蜻蛉類：チョウトンボ（学名：Rhyothemis fuliginosa、成体）
 アオモンイトトンボ（学名：Ischnura senegalensis、成体）
 鳥類：カワセミ（Alcedo atthis、成体）
 ジョウビタキ（Phoenicurus aureus、成体）



写真の撮影年月：2022年10月
 写真の説明：人工丘（彩りの丘）とそこに飛来したアサギマダラ



写真の撮影年月：2017年7月
 写真の説明：左 湿地に植栽した水生植物（大賀ハス）
 右 各種エコアップ装置（木積み・石積み）

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

工場調整池周辺生態系調査（2011年）に於いて地域の絶滅危惧Ⅱ類（VU）〔静岡県レッドリスト〕のミナミメダカが確認されたことで、ビオトープ造成時に水辺を中心に整備した。特にミナミメダカの保全として、波浪の影響を受けない湿地を形成。造成の際にエコートンを整備、多様な水生植物（抽水・浮葉・沈水）を植栽しミナミメダカの生息環境を整え、以降は個体数が増加している。

【確認された希少種】

ミナミメダカ（学名：Oryzias latipes、静岡県レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類（VU））



写真の撮影年月：2022年7月
写真の説明：湿地（きらめきの湿地）



写真の撮影年月：2016年10月
写真の説明：湿地内を泳ぎ回るミナミメダカ

サイトの管理計画・モニタリング計画

【管理計画の内容】

- ・ ミナミメダカの生息環境維持として開放水面の確保、水生植物のトリミングなどを1回/月に実施。
- ・ 湿地（きらめきの湿地）において年に1回モニタリング（生息数調査）を実施。
- ・ モニタリング結果を受けて保全方針を決定。
- ・ 事業所内で輪番制で除草作業を1回/週に実施。



撮影日又は撮影年月：2016年10月
写真の説明：ビオトープ内で飛来するカワセミと誘致目的に形成した人口の横穴



撮影日又は撮影年月：2017年10月
写真の説明：タマムシを増やす活動（木積み）とそこに産卵された後、羽化するヤマトタマムシ

【モニタリング対象】

ミナミメダカ

【モニタリング場所】

湿地（きらめきの湿地）

【モニタリング手法】

個体数の調査

捕獲数調査(メダカ個体群の増減を経年比較)

生息数調査(標識再捕獲法)(生息密度推定調査)

【実施時期及び頻度】

10月（1回/年）

【実施体制】

造成業者（株エクスワタナベ）に委託

調査結果考察は、山田辰美氏（常葉大学名誉教授）